

# オムロンの知的財産戦略に関する分析レポート

Gemini Deep Research

## 1. エグゼクティブサマリー

オムロンの知的財産戦略は、「近未来デザイン」を起点としたソーシャルニーズの創造という企業理念に深く根ざしており、明確な知財ポリシーに基づいて実行されています<sup>1</sup>。その戦略の中核には、排他的権利の追求と協調的な共有をバランスさせた「両利きの知財活動」があります<sup>2</sup>。同社の技術的焦点は多岐にわたり、工場設備制御システム、高度なセンシング技術（医療応用を含む）、ロボティクス、パワーエレクトロニクス、そして人工知能/データ分析などが挙げられます<sup>3</sup>。オムロンは、グローバルな商標登録を通じて積極的にブランドを保護し、タニタとの意匠権侵害訴訟に見られるように、侵害に対しては断固たる姿勢を示しています<sup>5</sup>。知的財産戦略は、ROIC（投下資本利益率）経営フレームワークへの組み込みを通じて、事業目標と緊密に連携しており<sup>2</sup>、将来的には、テクノロジーガバナンスの強化と知財活動へのAI活用に重点を置くことが示唆されています<sup>3</sup>。

この哲学は、単に既存のイノベーションを保護するだけでなく、将来の市場を形成し、社会課題に取り組むためのツールとして知的財産を捉えていることを示唆しています。また、「両利きの知財活動」という戦略は、排他的権利によって直接的な価値を獲得する一方で、協調的なアプローチを通じてより広範な市場成長を促すという、知的財産の戦略的価値に対する洗練された理解を示しています。

## 2. はじめに

知的財産は、現代の企業において、イノベーションを推進し、競争優位性を確保し、持続可能な成長に大きく貢献する重要な非財務資産としてますます認識されています<sup>1</sup>。このような認識の高まりに伴い、企業は知的財産ポートフォリオの管理に対して、より戦略的かつ包括的なアプローチを採用するようになっていきます。

産業オートメーション、ヘルスケア、電子部品など、多様な分野で事業を展開するグローバル企業であるオムロンは、グローバル市場における競争力を維持・強化するために、知的財産が極めて重要な役割を果たしています。

本レポートは、公開されている情報に基づいて、オムロンの知的財産戦略を包括的に分析することを目的としています。特許、商標、意匠権、および知的財産権の行使に対する同社のアプローチを調査することで、オムロンが事業目標を達成し、進化する技術的および競争環境を乗り切るために、知的資産をどのように活用しているかを明らかにし

ます。

### 3. オムロンの知的財産に関する理念とポリシー

オムロンの知的財産活動の中核には、「近未来デザイン」を起点としたソーシャルニーズの創造という明確な理念があります<sup>1</sup>。この理念は、同社の知的財産戦略が単に既存の発明を保護するだけでなく、将来の社会ニーズを予測し、技術革新を通じてそれらに対応することを目指していることを示しています。

この理念は、いくつかの主要な目標を概説する正式な知的財産ポリシーを通じて運用されています<sup>1</sup>。

- **質の高い知的財産の創造と戦略的活用:** オムロンは、価値の高い知的財産を生み出し、これらの権利を戦略的に活用することで、事業の継続的な成長と発展を目指し、グループ全体でイノベーションの文化を育んでいます。これには、従業員の創造性を奨励し、社会ニーズに対応することで社会に新たな価値を提供することが含まれます。
  - 質の高い知的財産に重点を置くことは、単に多数の出願を行うのではなく、その潜在的な事業的および社会的影響力の大きい発明を優先するという戦略的焦点を示唆しています。
- **第三者の知的財産権の尊重とリスクの最小化:** オムロンは、他者の知的財産権を尊重し、侵害に関連する事業リスクを最小限に抑えることに尽力しています。これにより、従業員は法的影響を心配することなく事業活動に集中でき、オムロングループは安定した事業運営を確保できます。
  - 第三者の IP を尊重するというコミットメントは、責任ある倫理的な事業運営への同社の姿勢を示すとともに、高額な訴訟リスクを軽減します。
- **近未来デザイン実現のための知財アーキテクチャ構築と先行出願:** イノベーション創出の基盤となる近未来デザインを実現するために、オムロンは必要な「知財アーキテクチャ」を構築し、新たな社会ニーズに対応する先行出願を強化しています<sup>1</sup>。この将来を見据えたアプローチは、長期的な競争力を維持するために不可欠です。
  - 「知財アーキテクチャ」という概念は、IP の創造と管理に対する計画的かつ構造化されたアプローチを示唆しており、同社は将来の技術的および市場の動向を積極的に予測し、それに対応しようとしています。
- **技術者の知財スキル向上とモチベーション向上:** オムロンは、継続的な社内研修プログラムを通じて、エンジニアの知的財産に関するスキル向上に投資しています。さらに、発明報奨制度や知的財産表彰制度を活用することで、技術者の知的財産活動へのモチベーションを高め、全社的なイノベーション文化を醸成しています<sup>1</sup>。

- 従業員のトレーニングとインセンティブへの重点は、イノベーションが組織全体の努力によって推進されるというオムロンの認識を示しています。
- 技術・知財本部傘下の知的財産センタは、この理念を実行し、知的財産戦略を推進する上で中心的な役割を果たしています<sup>1</sup>。この組織構造は、知的財産がオムロンの技術的および事業的枠組みに深く組み込まれていることを示しています。
- 知的財産センタの使命とビジョンは、近未来デザインを実現するための知的財産アーキテクチャを構築し、社会ニーズを捉えた先行出願を強化することに重点を置いています<sup>1</sup>。この積極的な姿勢は、市場をリードし、独自の価値を提供しようとする同社の意図を反映しています。
- これらの取り組みの結果、オムロンは技術者の特許出願能力を高め、外部機関からも高い評価を得ています。たとえば、「Top 100 グローバル・イノベーター」に9年連続10回目の選出を果たしています<sup>1</sup>。
  - このような継続的な外部からの評価は、オムロンのイノベーションと知的財産戦略の有効性を示す強力な証拠となります。

#### 4. オムロンの特許ポートフォリオと技術的焦点の分析

##### ● 4.1 主要技術分野:

- キーエンスとの比較分析<sup>4</sup>によると、オムロンの特許戦略の中核は「工場設備制御」技術です。キーエンスが「光学測定」に焦点を当てているのとは対照的に、オムロンの特許活動は、自動化されたインテリジェントな工場の実現を可能にする技術に大きく傾倒しています。これには、工場システム全体の制御や個々のデバイスのプログラム制御に関連する広範な特許が含まれます。
  - オムロンの工場全体の制御システムへの注力は、包括的な自動化ソリューションを提供するという戦略的重点を示唆しており、よりニッチな技術的焦点を持つ企業と比較して、より広範で潜在的に大規模な特許ポートフォリオを必要とします。
- より最近のデータ<sup>3</sup>では、特に創薬研究における実験作業の自動化（次世代ラボラトリーオートメーションシステム）に関連して、ロボティクスが戦略的重点分野として浮上しています。これは、同社の自動化に関する専門知識を、成長性の高い新たな分野に多様化させることを示しています。
  - 創薬などの専門分野へのロボティクス技術の拡大は、オムロンが既存の自動化技術を隣接する新興市場に活用する能力を示しています。
- 特に革新的で使いやすい血圧測定技術を含むセンシング技術は、ヘルスケア事業と、健康状態の改善という社会的ニーズへの対応という点で、もう1つの重要な焦点分野です<sup>3</sup>。
  - ヘルスケアにおけるセンシング技術への注力は、同社の長期ビジョンで概

説されている「健康寿命の延伸」という社会課題への取り組みと一致しています。

- パワーエレクトロニクス、特に産業用制御盤向けの小型で高効率な電源を実現する次世代 GaN（窒化ガリウム）デバイスに重点が置かれていることは、最先端技術の採用に対する将来を見据えたアプローチを示しています<sup>3</sup>。
  - GaN 技術への投資は、オムロンが産業オートメーション分野における電力効率と小型化の進歩の最前線に立つことを目指していることを示唆しています。
- 生産施設における品質分析から、CrystalFormer などのツールを通じた材料科学研究の加速まで、人工知能とデータ分析の応用がますます重要になっています<sup>3</sup>。これは、AI の変革の可能性に対する認識の高まりを反映しています。
  - さまざまな事業機能にわたる AI とデータ分析の統合は、効率を向上させ、イノベーションを推進し、新たな価値提案を生み出すという同社のコミットメントを強調しています。
- 過去のデータ<sup>14</sup>は、バイオメトリクスデータ処理、生体通信、精神状態推定、「鼓動感」生成など、ヘルスケア分野における重要な特許活動も明らかにしています。これは、従来のハードウェア中心のアプローチから、より包括的なヘルスケアソリューションへの戦略的転換を示しています。
  - ヘルスケア特許のハードウェアからデータ駆動型サービスへの進化は、デジタルヘルスと個別化医療への業界全体の傾向を反映しています。
- オムロンは顔認証技術においても強力な地位を確立しており、特許総合力で3位にランクインしています<sup>15</sup>。不正登録防止やモバイルデバイスのなりすまし防止などの分野で注目すべき特許を保有しており、セキュリティとユーザー認証における専門知識を示しています。
  - 顔認証技術における強力な特許ポートフォリオは、セキュリティ、アクセス制御、ヒューマン・マシン・インタラクションなど、さまざまな業界にわたる潜在的なアプリケーションを示唆しています。
- センサーとアプリケーション間のセンシングデータフローをメタデータマッチングに基づいて管理する特許技術である「Senseek」の開発<sup>14</sup>は、IoT とセンサー生成データの価値に対する同社の注力を強調しています。
  - 「Senseek」は、IoT エコシステムにおけるデータ管理と相互運用性のための基盤技術となる可能性があり、この分野で主導的な地位を確立する機会をオムロンに提供します。
- さらに、太陽光発電システム向けの「単独運転防止技術」や、ブランド化された「OKAO」顔画像センシング技術<sup>17</sup>など、特定の技術やブランドも特許取得しており、主要なイノベーションと市場提供を保護するための戦略的アプロー

チを示しています。

- アンチアイランド化制御や OKAO などの特定の技術の特許取得とブランド化により、オムロンは市場での差別化を図り、イノベーションの認知度を高めることができます。

#### ● 4.2 特許出願の傾向:

- 特許出願の傾向分析<sup>14</sup>によると、オムロン（オムロンヘルスケアを含む）は 2000 年以降の分析期間において特許出願数で上位に位置していましたが、2013 年以降はその数が減少しています。これは、特許戦略または事業戦略の潜在的な転換を示唆している可能性があります。
  - 2013 年以降の特許出願数の減少は、より質の高い特許に焦点を当てる戦略的再編、研究開発投資の変化、または他の形態の IP 保護への重点の移行など、さまざまな要因による可能性があります。
- 歴史的に、オムロンのヘルスケア特許はハードウェアデバイスに集中していましたが、最近の傾向では、これらのデバイスによって収集されたバイオメトリクスデータを活用するサービスに関連する特許取得への関心が高まっています<sup>14</sup>。この進化は、データ駆動型のヘルスケアソリューションの重要性の高まりを反映しています。
  - ヘルスケア特許のハードウェア中心からサービス中心への移行は、デジタルヘルスとデータ駆動型ビジネスモデルへの業界全体の動きを示しています。
- 「センシングデータ流通市場」の概念を対象とする特許第 5445722 号の存在<sup>14</sup>は、センサーによって生成されたデータの潜在的な価値と、この新興分野での IP を確保するための同社の積極的な取り組みを早期に認識していたことを示しています。
  - データ流通市場の特許取得は、IoT 分野におけるオムロンの先見の明を示しており、センサーデータの交換と利用のためのフレームワークを確立しようとする意図を示唆しています。

#### ● 4.3 重要な特許とその潜在的影響:

- オムロンの特許ポートフォリオには、顔認証システムにおける不正な画像挿入を防止する技術<sup>15</sup>などの重要な発明が含まれています。この特許は、さまざまなアプリケーションにおける顔認証技術のセキュリティと信頼性を確保する上で非常に重要です。
  - この特定の特許は、顔認証などの新興技術における重要な課題に対処するオムロンの注力を強調しており、堅牢で安全なソリューションを開発するという同社のコミットメントを示しています。
- 「Senseek」特許<sup>14</sup>は、センサーとアプリケーション間の効率的かつインテリ

ジェントなデータフローを促進することで、IoT の状況に大きな影響を与える可能性があります。これにより、センサーデータに基づいた新しいサービスやビジネスモデルの開発が可能になります。

- 「Senseek」は、IoT 分野におけるオムロンの基盤技術となる可能性があり、センサーデータの管理と利用のためのプラットフォームまたは標準を確立することができます。
- 保険給付に関連付けられた健康管理サービスに関する特許出願<sup>14</sup>は、既存のシステムと統合された革新的なヘルスケアサービスモデルに対するオムロンの関心を示唆しています。これは、新しいタイプの予防ヘルスケアサービスやパーソナライズされた保険プランにつながる可能性があります。
  - これは、オムロンが従来のヘルスケアデバイスを超えて、保険プロバイダーと提携して、より包括的なヘルスケアエコシステムに関与しようとしていることを示唆しています。
- **潜在的な表: 主要技術分野におけるオムロンの特許出願数の推移 (セクション 4)**
  - **表の価値:** 主要技術分野におけるオムロンの特許出願数の経年的な推移を示す表は、イノベーションの焦点と戦略的転換の貴重な視覚的表現を提供します。どの技術分野で特許活動が増加または減少したかを容易に特定でき、研究開発投資と戦略的優先順位の変化を反映します。
  - **含めるデータ:** 表には、年 (例: 2000 年から現在までの利用可能な最も早いデータ) を行として、主要技術分野 (例: 工場設備制御、センシング技術、ロボティクス、ヘルスケア技術、AI およびデータ分析、顔認証) を列として含める必要があります。セルには、各技術分野における各年のオムロンの特許出願数が含まれます。このデータを正確にコンパイルするには、さらに詳細な特許データベース検索が必要になる可能性があります。

## 5. 商標およびブランド保護戦略

- オムロンは、その企業ブランドである「OMRON」の計り知れない価値を認識しており、持続的な成長と発展にとって不可欠な資産と見なしています<sup>5</sup>。したがって、同社は主に知的財産部門が管理する堅牢なブランド保護戦略を策定しています。
- この戦略の要となるのは、グローバルな商標登録の積極的な追求です<sup>5</sup>。シームレスな国際事業運営を確保するために、オムロンは「OMRON」マークを含む商標を世界中のさまざまな国や地域で戦略的に登録しています。これには、適切な場合には現地語でのマークの登録も含まれており、グローバルブランディングに対する微妙な理解を示しています。
  - グローバルな商標登録の重視は、さまざまな市場で統一されたブランドイメー

ジを持つ真のグローバル企業として運営するというオムロンのコミットメントを示しています。

- オムロンは、特に商標に関して、知的財産権の侵害に対して断固たる姿勢をとっています<sup>18</sup>。同社は、世界中の「OMRON」ブランドの不正使用の継続的なグローバルモニタリング、現地子会社との連携による侵害活動の早期発見、各国の特定の法的小よび規制の枠組みに基づいたカスタマイズされた対策の実施など、多角的なアプローチを採用して侵害問題に対処しています<sup>5</sup>。
  - 商標の積極的な監視と執行は、オムロンのブランドエクイティを保護し、消費者の混乱を防ぐというコミットメントを示しています。
- オンラインでの模倣品の蔓延がますます深刻化していることを認識し、オムロンはこの問題に対処するための取り組みを強化しています<sup>5</sup>。同社は、さまざまな電子商取引プラットフォームや各国の税関当局と積極的に協力して、「OMRON」ブランドを冠した模倣品を特定し、排除しています。この積極的なアプローチは、事業利益と顧客の安全と信頼の両方を守る上で非常に重要です。
  - オンライン模倣品との戦いに重点を置くことは、デジタル市場がもたらす課題と、潜在的に有害または低品質な模倣品から消費者を保護するという同社のコミットメントに対するオムロンの認識を浮き彫りにしています。
- 中核となる「OMRON」ブランドを超えて、同社はさまざまな製品ラインに特定の商標も使用しています。たとえば、「Sysmac」と「i-BELT」は、オムロンのファクトリーオートメーション（FA）機器製品に使用される商標として特定されています<sup>20</sup>。この階層化されたブランディング戦略は、特定の事業セグメント内での製品の差別化に役立ちます。
  - 企業ブランドと製品固有の商標を併用することで、オムロンはさまざまなレベルでブランド認知とロイヤルティを構築し、特定の顧客ニーズと市場セグメントに対応できます。
- オムロンとその子会社の公式ウェブサイトには、「OMRON」および「オムロン」という登録商標が目立つように表示されており<sup>21</sup>、デジタル空間におけるブランドアイデンティティと法的保護が強化されています。
- 同社の商標戦略のさらなる証拠は、広告、経営管理、市場調査を対象とするクラス35の「OMRON CREATIVE COMMUNICATIONS」などの登録に見られます<sup>22</sup>。これは、同社の商標保護が製品名だけでなく、より広範な事業活動に関連するブランド要素にも及んでいることを示しています。
  - 広告や経営管理などのサービスに関する商標を登録することで、オムロンは包括的なブランド保護への取り組みを示し、事業のあらゆる側面が法的に保護されていることを保証します。
- クラス9 および42のセンサーおよび関連コンピューターソフトウェアの最近の商

標出願<sup>23</sup>は、ハードウェアとソフトウェアの両方の側面をカバーする主要な技術分野におけるブランドを保護するための継続的な取り組みをさらに示しています。

- この最近の商標出願は、センサーやソフトウェアなどの戦略的に重要な分野におけるオムロンのブランド保護への継続的な投資を反映しており、これらの技術ドメインへの同社の注力を強調しています。

## 6. 意匠権とその執行

- オムロン、特にそのヘルスケア部門であるオムロンヘルスケアは、意匠権を通じて製品の美的側面と機能的側面を保護することに重点を置いています<sup>10</sup>。これは、製品デザインが購買決定に大きな影響を与える可能性のある消費者向けのヘルスケア市場では特に重要です。
- 同社の意匠権戦略の注目すべき側面は、意匠ポートフォリオの積極的な開発です<sup>10</sup>。これらのポートフォリオは、オムロンの製品デザインの進化と競合他社のデザインを体系的にマッピングします。これにより、トレンドを特定し、将来のデザインの方向性を予測し、現在および将来の製品イテレーションの両方をカバーするために意匠保護を戦略的に出願することができます。
  - 意匠ポートフォリオの作成は、現在の製品デザインを単に登録するだけでなく、デザイン保護に対する洗練された将来を見据えたアプローチを示しています。
- 意匠保護をさらに強化するために、オムロンは、中核となるデザインのバリエーションを取り入れた関連デザインを積極的に出願するなどの戦略を採用しています。また、将来の製品ライン全体で標準化または組み込まれる可能性のある製品の特定の要素または機能を保護するために、部分意匠を利用しています<sup>10</sup>。このアプローチは、製品の美的外観に対するより広範な法的保護を確保することを目的としています。
  - バリエーションおよび部分意匠の出願の使用は、意匠権保護の範囲と寿命を最大化するための戦略的努力を示しています。
- オムロンの意匠権の行使へのコミットメントは、体組成計市場の競合他社であるタニタに対する、十分に文書化された意匠権侵害訴訟によって明確に示されています<sup>6</sup>。訴訟では、タニタの体組成計がオムロンの登録意匠と実質的に類似していると主張されました。
  - 競合他社に対する法的措置を追求するという決定は、製品デザインへの投資を保護し、類似品による市場シェアの浸食を防ぐというオムロンの重視を強調しています。
- この訴訟における東京地方裁判所の最初の判決はオムロンに有利であり、裁判所はタニタに約1億3000万円の損害賠償を命じました<sup>6</sup>。この多額の損害賠償は、意

匠権を侵害した場合の潜在的な経済的影響を浮き彫りにしています。この事件は最終的に控訴審で和解しましたが、最初の判決は意匠権の執行可能性について強いメッセージを送りました。

- 当初の多額の損害賠償は、潜在的な意匠権侵害に対する抑止力として機能し、登録意匠の潜在的な経済的価値を強調しています。
- タニタ事件における裁判所の判決では、オムロンの登録意匠の1つとタニタの製品との類似性が認められましたが、オムロンの別の意匠については侵害は認められませんでした<sup>7</sup>。この結果は、意匠侵害の判断の複雑で微妙な性質を示しており、全体的な外観のわずかな違いでさえ、侵害の判断において重要になる可能性があります。
  - タニタ事件における侵害の一部認定は、意匠類似性評価の主観的な性質と、明確で防御可能な意匠登録を持つことの重要性を浮き彫りにしています。

## 7. 競争優位性のための知的財産の活用

- オムロンは、戦略的に重要な国々で特許保護を取得することにより、世界中の主要市場で事業の自由を確保するために知的財産ポートフォリオを戦略的に活用しています<sup>18</sup>。これにより、類似の権利を持つ競合他社からの法的異議申し立てに直面することなく、イノベーションを商業化する能力が保証されます。
  - 事業の自由を確保することは、積極的なIP戦略の基本的な側面であり、オムロンがより自信を持ってグローバル市場に参入し、競争することを可能にします。
- 同社のIP戦略は、事業戦略、技術戦略と深く統合されており、「三位一体」のアプローチを形成しています<sup>2</sup>。この緊密な連携により、IP活動は同社の事業目標と技術的進歩を直接的にサポートします。
  - この統合されたアプローチは、IPがサイロ化された機能ではなく、事業のあらゆる側面に織り込まれた戦略的資産であるというオムロンの成熟した理解を示しています。
- オムロンは、現在の事業範囲を超えた将来の技術の創造と保護に積極的に取り組んでおり、2030年までのトレンドをターゲットとした長期的な視点を持っています<sup>18</sup>。この将来を見据えたアプローチにより、新興技術分野で競争力を確保することができます。
  - 将来の技術を保護することに重点を置くことは、オムロンが短期的な利益だけでなく、長期的な市場のリーダーシップと持続可能性にも焦点を当てていることを示しています。
- 同社のIP戦略の「独占排他型」の側面は、特許権を取得および行使することによって、売上と市場シェアを拡大することを目的としています<sup>2</sup>。これにより、競合

他社が同社の革新的な技術を使用することを防ぎ、自社の製品とサービスに競争上の優位性をもたらします。

- この排他的アプローチは、イノベーションから直接的な価値を獲得し、競合他社よりも優位に立つための伝統的かつ依然として重要な方法です。
- ヘルスケア分野では、主要なハードウェア機能の特許取得することで、オムロンは優れた機能に基づいて製品を差別化することに成功しています<sup>14</sup>。この技術的な差別化は、ヘルスケア市場における同社の成功の重要な要因となっています。
  - ハードウェア機能の特許取得に重点を置くことは、製品の性能と信頼性が高く評価される市場で具体的な競争上の優位性を提供しました。
- オムロンは、IP を ROIC（投下資本利益率）管理フレームワークに組み込み、知的財産を将来の成長と収益性に貢献する投資と見なしています<sup>2</sup>。これは、同社の IP 資産の経済的価値に対する洗練された理解を示しています。
  - IP を ROIC に結び付けることで、IP 投資が同社の財務目標と戦略的に整合していることを保証し、知的財産によって生み出される価値を測定できます。
- 同社は、コアテクノロジー、マーケティング、計画機能を結び付け、内部イノベーションを促進するためのツールとして「IP ランドスケープ」分析を活用しています<sup>11</sup>。この積極的な IP ランドスケープ分析により、将来のイノベーションと戦略的パートナーシップの潜在的なギャップと機会を特定できます。
  - IP ランドスケープ分析の使用は、ビジネス上の意思決定を知らせ、成長のための新たな分野を特定するために IP データを活用する、積極的かつ戦略的なイノベーションアプローチを示しています。

## 8. 知的財産に関するコラボレーション、パートナーシップ、訴訟

- 排他的な IP 戦略を補完するものとして、オムロンは「シェアリング&インクルージョン型」のアプローチも採用しています<sup>2</sup>。これには、ビジネスエコシステムを拡大し、市場全体の成長を促進するために、パートナーとの協力を積極的に求め、必要な IP を戦略的に共有することが含まれます。これは、特定の状況では、厳格な排他性よりも協力の方が有益である可能性があるという認識に基づいています。
  - この協調的なアプローチは、オープンイノベーションの価値と、市場拡大を推進するための他の企業との相互に有益な関係の可能性に対するオムロンの理解を示唆しています。
- この共有と協力を促進するために、オムロンは顧客やパートナーを含むさまざまなステークホルダーとの協力を積極的に行っています<sup>2</sup>。これにより、外部の IP 情報を把握し、顧客のニーズを理解し、共同開発や技術共有の潜在的な分野を特定することができます。
  - 外部の利害関係者と協力してその IP 知識を活用することは、オムロンのオー

プイノベーションモデルへのコミットメントと、新しいアイデアや技術のために社内リソースを超えて目を向ける意欲を強調しています。

- タニタに対する意匠権侵害訴訟<sup>6</sup>は、必要に応じて知的財産権を保護するために IP 訴訟に関与するオムロンの意欲を示す顕著な例です。これは、同社の製品デザインの不正コピーに対する断固たる姿勢を示しています。
  - 協力関係を重視する一方で、必要に応じて訴訟を追求するというオムロンの姿勢は、IP 資産を守り、潜在的な侵害者を抑止するという同社のコミットメントを強調しています。
- さらに、オムロンは IP 侵害を容認せず、ブランド価値を保護するためにテイクダウンや警告の発行などの措置を積極的に講じるというポリシーを明確に述べています<sup>18</sup>。この積極的な姿勢は、ブランドの整合性を維持し、偽造品や侵害品の拡散を防ぐのに役立ちます。
- 提供されたスニペットには、一般的な「シェアリング&インクルージョン」戦略を超えたオムロンの IP 協力の具体的な例は示されていませんが、スニペット<sup>24</sup>は、新事業創出のための M&A や IP 共有を通じた技術取得のより広範な業界トレンドについて言及しています。オムロンもそのような活動に関与している可能性はありますが、現在の資料では具体的な証拠は提供されていません。
  - スニペットに IP 協力の具体的な例がないことは、戦略のこの側面があまり公に強調されていないか、特定の事例を明らかにするにはさらなる調査が必要であることを示唆している可能性があります。

## 9. 事業目標および研究開発目標との IP 戦略の整合性

- オムロンの知的財産戦略は、孤立して策定されるのではなく、明確に定義された「三位一体」のアプローチを通じて、全体的な事業および研究開発目標と複雑に結び付けられています<sup>2</sup>。これにより、IP 活動が同社の全体的な目標に直接貢献することが保証されます。
- 同社は、今日の複雑で急速に進化する技術環境において、高度な IP 戦略が事業の成功を決定する上で重要な役割を果たすことを認識しています<sup>2</sup>。したがって、IP 戦略の策定と実行は、経営レベルで大きな注目を集めています。
- オムロンの IP 戦略は、長期ビジョン「Shaping the Future 2030」(SF2030)<sup>2</sup>を具体的にサポートするように設計されています。これは、将来の社会課題に対処することを目的とした価値創造ストーリーの実現とビジネスモデルの具体化に貢献します。
  - IP 戦略と長期ビジョンの直接的な関連性は、オムロンが野心的な将来目標を達成する上で知的財産が戦略的に重要であることを強調しています。
- 知的財産センタは、オムロン内のすべての知的財産および無形資産のガバナンスを

監督する上で中心的な役割を果たしています<sup>2</sup>。技術開発のサポート、新規事業の創出の促進、既存事業部門への戦略的指導の提供において不可欠です。

- 知的財産センタによる IP の一元管理は、組織全体で知的資産を管理するための一貫した協調的なアプローチを保証します。
- 重要な組織変更として、IP 部門の戦略的機能が研究開発本部から社長直轄の事業企画部門に移管されました<sup>11</sup>。この変更は、オムロンにおける経営幹部レベルでの知的財産の戦略的地位の向上を示しています。
  - この組織再編は、IP がオムロンの事業目標達成において戦略的優先事項であることを明確に示しており、IP が企業戦略に直接的な影響を与えることを保証することを目的としています。
- オムロンは、コーポレートガバナンス・コード<sup>26</sup>で強調されているように、知的財産への投資を事業戦略と主要な経営課題に明確に整合させています。これは、知的資産の管理における透明性と説明責任へのコミットメントを示しています。
  - コーポレートガバナンスガイドラインの遵守は、オムロンの IP 管理におけるベストプラクティスへのコミットメントと、株主価値に対する知的財産の重要性の認識を示しています。
- 同社はまた、デジタル変革 (DX) イニシアチブ<sup>11</sup>の一環として「IP ランドスケープ」分析を活用しています。これには、新しいビジネスチャンスの探求だけでなく、組織内の人材推薦システムなどの革新的なアプリケーションのための IP データの活用が含まれます。
  - 従来競争分析を超えた目的での IP ランドスケープの使用は、知的財産インテリジェンスを活用するための革新的かつ包括的なアプローチを示しています。

## 10. オムロンの知的財産戦略における課題とリスク

- 特定された重要な課題の1つ<sup>26</sup>は、特に組織の変化やリーダーシップの移行期において、IP センタの使命とビジョンがチームのすべてのメンバーによって効果的に伝達され、受け入れられるようにすることに関連しています。明確さの欠如は、不確実性や目的意識の低下につながる可能性があります。
  - 組織がダイナミックな環境において、IP 戦略の成功裏の実施には、内部の連携と IP 戦略の共通理解を維持することが不可欠です。
- 特定の IP タスクの標準化とアウトソーシングへの注力が高まっていること<sup>26</sup>は、効率性を向上させる可能性があります。IP 専門家の目的意識と価値観を希薄にするリスクも伴います。これは、IP プロセスの実行と会社の戦略目標との間に断絶を生じさせる可能性があります。
  - 効率性と IP チーム内の戦略的目的意識の維持との適切なバランスを見つける

ことは、オムロンにとって重要な課題です。

- オムロンも認識している<sup>3</sup>、イノベーション管理における一般的な課題は、「死の谷」、つまり有望な研究成果が商業的に成功した製品やサービスに移行できない段階を克服することです。これは、研究開発と市場応用との間のギャップを埋めるための効果的な戦略の必要性を強調しています。
  - 研究を市場性のある製品に効果的に変換することは、研究開発投資の収益を最大化し、長期的な成長を保証するために、オムロンにとって重要な課題です。
- オムロンのような大規模組織内で、膨大な量の知識を管理し効果的に分類することは、もう1つの課題です<sup>27</sup>。知識分類の粒度は、管理と利用が困難になるほど複雑すぎるシステムを避けるために慎重に検討する必要があります。
  - 詳細さと使いやすさのバランスが取れた効果的な知識管理システムを開発することは、オムロンの社内専門知識を活用し、イノベーションを促進するために不可欠です。
- オンラインでの偽造品の脅威の増大は、オムロンのブランド保護活動にとって重大かつ継続的な課題となっています<sup>5</sup>。偽造者の巧妙化とオンライン販売の容易さにより、電子商取引プラットフォームや税関当局との協力による継続的な監視と効果的な対策の開発が必要になります。
  - オンライン偽造品との戦いには、技術的ソリューション、法的措置、およびさまざまな利害関係者との協力を含む、持続的かつ積極的な取り組みが必要です。
- スニペット<sup>3</sup>は、同社のパワーエレクトロニクス技術革新の鍵となる GaN デバイスのノイズ管理に関連する特定の技術的課題にも言及しています。このような技術的なハードルを克服することは、高度な技術の成功裏の開発と商業化にとって不可欠です。
  - 中核技術における技術的課題に対処することは、イノベーションプロセスに固有のものであり、継続的な研究開発努力と専門知識が必要です。
- より広範には、オムロンは、知的財産やその他の無形資産を含む非財務資本の増加または損害に関連するリスクを、主要な持続可能性の課題として認識しています<sup>11</sup>。これは、事業の長期的な持続可能性を確保するために、これらの資産を積極的に管理および保護することの重要性を強調しています。
  - 無形資産に関連するリスクを持続可能性の課題として認識することは、これらの資産が全体的な事業の回復力と長期的な価値創造にとってますます重要になっていることを強調しています。

## 11. オムロンの IP の将来の見通しと戦略的方向性

- 今後、オムロンは、各事業分野の明確な技術戦略の策定、全社レベルでの技術投資

の優先順位付け、戦略に基づいた質の高い開発テーマの実行など、テクノロジーガバナンスの枠組みを強化することで、強力なテクノロジー管理能力をさらに進化させることを目指しています<sup>3</sup>。

- テクノロジーガバナンスの強化は、オムロンの技術開発と IP 活動に対する、より構造化された戦略的なアプローチを提供し、より適切なリソース配分と事業目標との連携を保証します。
- 同社は、価値創造を加速し、IP ランドスケープ仮説検証の効率と有効性を向上させるために、IP 活動における人工知能 (AI) の活用を増やすことを計画しています<sup>3</sup>。これは、IP 戦略を強化するために高度な技術を採用するというコミットメントを示しています。
  - IP プロセスへの AI の統合は、特許分析、競合インテリジェンス、新しいイノベーション機会の特定などのタスクの効率を大幅に向上させる可能性があります。
- 重要な将来の方向性として、知的財産センタを通じてすべての内部技術と知識を一元的に管理することが挙げられます<sup>3</sup>。これは、さまざまな事業部門や研究分野にわたって、同社の集団的な専門知識と知的資産の効率的な活用を促進することを目的としています。
  - 一元化された知識管理は、組織内のサイロを解消し、より優れたコラボレーションと知識共有を促進し、より効率的なイノベーションと IP の生成につながります。
- オムロンの長期ビジョンである SF2030<sup>25</sup> は、自動化を通じて新たな価値を創造し、高齢化、気候変動、経済格差の拡大などの重要な社会課題に取り組むために、中核となる「センシング&コントロール+Think」技術に継続的に注力することを強調しています。これは、将来の IP 活動の方向性を左右するでしょう。
  - 中核技術と IP 戦略を主要な社会課題への取り組みに整合させることで、オムロンはより持続可能で公平な未来に貢献するとともに、新たな市場機会を創出する立場を確立します。
- 同社はまた、デジタル変革 (DX) イニシアチブ<sup>11</sup>を通じて中核となる技術とビジネスモデルをさらに進化させることを想定しており、新しいデジタル製品やサービスを開発するにつれて、IP 戦略に影響を与えることは間違いありません。
  - DX 戦略は、ソフトウェア、アルゴリズム、データ関連のイノベーションなど、新しいタイプの知的財産の創造につながる可能性があり、既存の IP 管理慣行の適応が必要になります。
- 確立されたアプローチに基づいて、オムロンの IP 部門は、R&D 管理の戦略的アドバイザーとしての役割を継続し、中核となる「センシング&コントロール技術」を活用してグループの成長を推進することが期待されています<sup>28</sup>。IP と R&D の間

のこの継続的なコラボレーションは、イノベーションプロセスの初期段階から IP の考慮事項を統合するために不可欠です。

- IP 部門と R&D の継続的な緊密な協力により、イノベーションライフサイクル全体を通じて知的財産が効果的に保護され、活用されることが保証されます。
- 最終的に、オムロンの IP 部門は、社会問題を解決し持続可能な成長を推進するために、知的財産資産の創造、活用、保護に注力することで、同社の成長戦略において重要な役割を果たし続けるでしょう<sup>29</sup>。これは、長期的な事業目標を達成し、社会福祉に貢献するための IP の中心的な役割を再確認するものです。
  - オムロンの IP 戦略の将来の見通しは、イノベーションへのコミットメント、社会ニーズへの対応、知的財産の効果的な管理と活用による持続可能な成長の推進にしっかりと根ざしています。

## 12. 業界動向とのオムロンの IP 戦略の比較

- **12.1ヘルスケア業界の動向:**
  - ヘルスケア業界は現在、遠隔患者モニタリング、AI 駆動型診断、デジタルセラピューティクスなどのデジタルヘルス技術<sup>30</sup> への大きな転換期を迎えています。ヘルスケアアプリケーション向けのセンシング技術とヘルスケア 2.0/3.0 特許分野へのオムロンの注力<sup>3</sup> は、この支配的なトレンドとよく一致しています。
    - ヘルスケア IP におけるオムロンの戦略的方向性は、デジタルおよびデータ駆動型ソリューションへのより広範な業界の動きと同期しているようです。
  - ヘルスケア分野における注目すべきトレンドは、IT 企業<sup>31</sup> の参入の増加であり、これらは従来の特許取得を超えて、戦略的提携や特許共有などの多様な IP 戦略をもたらしています。オムロンの「シェアリング&インクルージョン」IP 戦略<sup>2</sup> は、この進化する状況において特に有利であり、これらの新規参入者との協力を促進する可能性があります。
    - オムロンの協調的な IP アプローチは、ヘルスケア分野における主要な差別化要因となり、IT 企業やその他の非伝統的なプレーヤーとの効果的な提携を可能にする可能性があります。
  - ゲノミクス、ビッグデータ、AI の進歩に牽引される個別化医療は、もう 1 つの重要なトレンドです<sup>33</sup>。CrystalFormer<sup>3</sup> に見られるように、AI とデータ分析へのオムロンの注力が高まっていることは、より個別化されたヘルスケアソリューションのためにこれらの技術を活用する方向にも進んでいることを示唆しています。
    - ヘルスケアアプリケーション向けの AI とデータ分析へのオムロンの投資

は、業界全体の個別化医療と精密医療への動きと一致しています。

- ヘルスケア技術に関連する物理的な製品だけでなく、データとサービスを保護することの重要性がますます強調されています<sup>31</sup>。オムロンの「センシングデータ流通市場」に関する特許<sup>14</sup>は、このトレンドの早期認識と、この重要な分野での IP を確保するための積極的な取り組みを示しています。
  - ヘルスケアにおけるデータ関連のイノベーションの保護に早期から注力することで、オムロンはヘルスケア業界がますますデータ駆動型になるにつれて、有利な立場を確立しています。
- **12.2 ファクトリーオートメーション (FA) 業界の動向:**
  - ファクトリーオートメーション (FA) 業界は、デジタル化の進展と情報技術 (IT) と運用技術 (OT) の統合によって大きく変革されており、インダストリー4.0 とスマートファクトリーの実現に向けて進んでいます<sup>35</sup>。オムロンの工場設備制御システム<sup>4</sup>への注力は、この主要な業界トレンドの中心に位置しています。
    - オムロンの中核事業は、FA 業界の最も重要なトレンドと直接的に一致しており、将来の成長とイノベーションのための強力な基盤を提供しています。
  - FA 業界では、個々のハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントを提供するだけでなく、包括的なソリューションとサービスを提供することへの明確な移行が見られます<sup>37</sup>。自動化による価値創造へのオムロンの重点<sup>25</sup>は、このトレンドと一致しており、より統合されたサービス指向の製品への移行を示唆しています。
    - 自動化による価値創造へのオムロンの戦略的重点は、個々の製品だけでなく統合されたソリューションを求める FA 顧客の進化するニーズに対する理解を示しています。
  - データ分析と人工知能は、製造プロセスの最適化、効率の向上、予知保全の実現において、FA 分野でますます重要になっています<sup>37</sup>。AI とデータ分析へのオムロンの注力<sup>3</sup>は、このトレンドに直接対応しており、工場オートメーション向けのデータ駆動型ソリューションを提供するという同社のコミットメントを示しています。
    - FA アプリケーション向けの AI とデータ分析へのオムロンの投資により、製造におけるデータ駆動型最適化に対する需要の高まりに対応する高度なソリューションを提供することができます。
  - 複雑で統合されたソリューションを提供するために、企業が提携する必要性が認識されているため、FA 業界ではコラボレーションと共創もますます重要になっています<sup>24</sup>。オムロンの「シェアリング&インクルージョン」IP 戦略<sup>2</sup>

は、この状況において非常に適切であり、製品を強化するための戦略的提携を結ぶことを可能にする可能性があります。

- オムロンの協調的な IP アプローチは、FA 業界におけるパートナーシップと共創の増加傾向と一致しており、外部の専門知識とリソースを活用することを可能にしています。
- 最後に、製造業における持続可能性とカーボンニュートラルへの取り組みが、FA 業界で重要な考慮事項として浮上しています<sup>36</sup>。オムロンの長期ビジョンにもカーボンニュートラルへのコミットメントが含まれており<sup>3</sup>、FA 分野における同社の将来の IP 戦略は、環境に優しく持続可能な製造技術にますます焦点を当てる可能性があることを示唆しています。
  - FA 業界の持続可能性トレンドとのオムロンの整合性は、技術とソリューションの環境への影響を考慮した将来を見据えたアプローチを示しています。

### 13. 結論と戦略的提言

- オムロンの知的財産戦略は、イノベーションを通じて社会的価値を創造するという中核的な企業理念との強い整合性を特徴としています。排他的権利と協調的な共有を両立させる「両利きの」アプローチは、IP の戦略的潜在力に対する洗練された理解を示しています。IP の考慮事項を ROIC 管理フレームワークに統合することで、知的資産の経済的価値に対する同社の重視がさらに強調されています。
- 同社の技術的焦点は、工場自動化、ヘルスケア、ロボティクス、センシング、パワーエレクトロニクス、AI/データ分析など、現在および将来の社会ニーズと業界トレンドに関連する主要分野に及んでいます。この多様化されたアプローチにより、さまざまな高成長分野での機会を活用することができます。
- オムロンは、グローバルな商標登録を通じて積極的にブランドを保護し、意匠権を積極的に行使する意欲を示しており、あらゆる形態の知的財産を重視していることを強調しています。
- これらの強みにもかかわらず、オムロンは、IP 戦略に関する社内連携の維持、研究開発成果の商業化への効果的な移行、オンライン偽造の脅威の増大への対処、組織内の知識管理の最適化などの課題に直面しています。
- IP 戦略をさらに強化し、競争上の優位性を最大限に高めるために、オムロンは次の戦略的提言を検討する必要があります。
  - **デジタルヘルス分野における協業の強化:** デジタルヘルスの状況の急速な進化を踏まえ、オムロンは、補完的な専門知識を活用し、この重要な分野でのイノベーションを加速するために、IT、バイオテクノロジー、その他のヘルスケア関連企業との戦略的協業を積極的に模索し、育成する必要があります。

- 「シェアリング&インクルージョン」イニシアチブの拡大: ヘルスケア分野とファクトリーオートメーション分野の両方で、「シェアリング&インクルージョン」IP 戦略をさらに発展させ、推進し、より広範なエコシステムの成長を促進し、新たな市場機会と技術的進歩につながる戦略的パートナーシップを確立します。
- 商業化戦略の強化: 研究開発と商業化の間の「死の谷」を効果的に埋めるための、より堅牢な戦略とプロセスを実施します。これには、研究開発、事業開発、マーケティングチーム間の緊密な連携、および新しいビジネスモデルと市場参入戦略の検討が含まれる場合があります。
- 社内 IP エンゲージメントへの投資: すべての従業員、特に研究開発部門の従業員が、会社の IP 戦略を明確に理解し、その成功に貢献する意欲を持つようにするために、社内コミュニケーションとエンゲージメントのイニシアチブへの投資を継続します。
- IP 収益化機会の探求: 広範な特許ポートフォリオを考慮して、オムロンは、特に非中核事業分野において、ライセンス契約や戦略的パートナーシップを通じて知的財産をさらに収益化する機会を積極的に探求する必要があります。
- FA におけるサステナビリティへの積極的な取り組み: サステナビリティが FA 業界でますます重要になるにつれて、オムロンは、環境に優しくエネルギー効率の高い自動化技術の開発と保護に、研究開発と IP の取り組みを積極的に **направлять** する必要があります。
- 業界動向の継続的な監視と適応: ヘルスケア業界とファクトリーオートメーション業界の両方における進化する IP 戦略を常に監視し、競争力を維持し、新たなトレンドを活用するために、自社のアプローチを適応させる準備を整えます。

結論として、オムロンの IP 戦略は強力な基盤の上に構築されており、そのビジネス目標と業界の動向にうまく整合しています。これらの提言を実施することで、同社は知的財産をさらに活用して競争上の優位性を高め、持続可能な成長を推進し、将来の課題に取り組むことができます。

## 引用文献

1. 知財の取り組み | テクノロジー | オムロン - OMRON Corporation, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://www.omron.com/jp/ja/technology/property/>
2. 両利きの知財活動を戦略目標に〜オムロン知財戦略の ... - PR TIMES, 3月 23, 2025 にアクセス、<https://prtimes.jp/story/detail/B5w3MPiA6wr>
3. 技術・知財本部, 3 月 23, 2025 にアクセス、[https://www.omron.com/jp/ja/ir/irlib/pdfs/ar24j/OMRON Integrated Report 2024](https://www.omron.com/jp/ja/ir/irlib/pdfs/ar24j/OMRON_Integrated_Report_2024)

- [\\_jp\\_24.pdf](#)
4. キーエンスの特許戦略～オムロンとの比較で見える今後の技術開発 ..., 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://www.techno-producer.com/column/keyence-patent-strategy/>
  5. ブランド保護活動 | 知的財産情報 | オムロンについて | オムロン, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://www.omron.com/jp/ja/technology/information/protect/>
  6. 【国内】オムロン及びタニタ、体重計の意匠権侵害訴訟で和解 - 天野特許事務所, 3 月 23, 2025 にアクセス、  
<https://www.apip.jp/%E3%80%90%E5%9B%BD%E5%86%85%E3%80%91%E3%82%AA%E3%83%A0%E3%83%AD%E3%83%B3%E5%8F%8A%E3%81%B3%E3%82%BF%E3%83%8B%E3%82%BF%E3%80%81%E4%BD%93%E9%87%8D%E8%A8%88%E3%81%AE%E6%84%8F%E5%8C%A0%E6%A8%A9%E4%BE%B5/>
  7. 意匠権を侵害されたらどうなる？事例を交えて解説！ - 知財タイムズ, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://tokkyo-lab.com/isyou/lawsuittk>
  8. 意匠権侵害したらどうなる？交渉や訴訟でのポイントを事例で解説, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://kigyobengo.com/media/useful/702.html>
  9. 模倣品対策はどうやる？詳しく解説します - 知財タイムズ, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://tokkyo-lab.com/co/copy-goods>
  10. 知財功労賞 特許庁長官表彰, 3 月 23, 2025 にアクセス、  
[https://www.jpo.go.jp/news/koho/tizai\\_koro/document/h29\\_tizai\\_kourou/panel\\_11\\_omron.pdf](https://www.jpo.go.jp/news/koho/tizai_koro/document/h29_tizai_kourou/panel_11_omron.pdf)
  11. 知財・無形資産の投資・活用戦略の 定性的・定量的説明について（ガイドライン本体の別添, 3 月 23, 2025 にアクセス、  
[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/tyousakai/tousi\\_kentokai/dail1/siryou6.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/tyousakai/tousi_kentokai/dail1/siryou6.pdf)
  12. yorozuipsc.com, 3 月 23, 2025 にアクセス、  
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/3a8fcccc7536bcabb6d8.pdf>
  13. 技術・知財本部, 3 月 23, 2025 にアクセス、  
[https://www.omron.com/jp/ja/ir/irlib/pdfs/ar22j/OMRON\\_Integrated\\_Report\\_2022\\_jp\\_19.pdf](https://www.omron.com/jp/ja/ir/irlib/pdfs/ar22j/OMRON_Integrated_Report_2022_jp_19.pdf)
  14. 生体情報の事業活用に向けた 特許戦略, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://jpaa-patent.info/patent/viewPdf/2988>
  15. 【顔認証】特許総合力トップ3 は NEC、パナソニック、オムロン - パテント・リザルト, 3 月 23, 2025 にアクセス、  
<https://www.patentresult.co.jp/ranking/total/faceauth.html>
  16. 特許第 5445722 号 アプリの要求に合致したセンサをアプリに結合する機能 - OMRON Corporation, 3 月 23, 2025 にアクセス、  
<https://www.omron.com/jp/ja/technology/information/patent/17.html>
  17. 知財情報 | テクノロジー | オムロン - OMRON Corporation, 3 月 23, 2025 にアクセス、  
<https://www.omron.com/jp/ja/technology/information/patent/>
  18. 知的財産戦略, 3 月 23, 2025 にアクセス、  
[https://www.omron.com/jp/ja/ir/irlib/pdfs/ar16j/ar16\\_16.pdf](https://www.omron.com/jp/ja/ir/irlib/pdfs/ar16j/ar16_16.pdf)

19. 両利きの知財活動を戦略目標に | We are Shaping the Future! 私たちが手繰り寄せる未来ストーリー | オムロン株式会社 - OMRON Corporation, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://www.omron.com/jp/ja/edge-link/news/697.html>
20. 商標について | オムロン制御機器, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://www.fa.omron.co.jp/footer/trademark.html>
21. 当サイトのご利用にあたって Terms of Use - オムロン関西制御機器, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://www.omron-kansai.co.jp/terms.html>
22. 商標「OMRON CREATIVE COMMUNICATIONS」の詳細情報 - Toreru 商標検索, 3 月 23, 2025 にアクセス、[https://search.toreru.jp/homes/detail?application\\_number=1994021965](https://search.toreru.jp/homes/detail?application_number=1994021965)
23. OMRON Corporationの商標一覧 - IP Force, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://ipforce.jp/shohyo/apview?idDLAp=350>
24. 共創を生む“知財”というツール。活用の最前線を先進企業が語った「知的財産×ビジネス創出セッション Vol.2」をレポート - OPEN HUB for Smart World, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://openhub.ntt.com/journal/11669.html>
25. オムロン長期ビジョン「Shaping the Future 2030」 - OMRON Corporation, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://www.omron.com/jp/ja/vision/sf2030/>
26. オムロン株式会社様 | お客様事例 - ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ, 3 月 23, 2025 にアクセス、[https://www.ctp.co.jp/case\\_study/case582/](https://www.ctp.co.jp/case_study/case582/)
27. 人的資本経営と知財 - Tokai Circular Economy, 3 月 23, 2025 にアクセス、<http://tokai-ce.com/project/omron>
28. 技術経営における知的財産部門の役割, 3 月 23, 2025 にアクセス、[http://www.jjpa.or.jp/kaiin/kikansi/honbun/2006\\_08\\_1235.pdf](http://www.jjpa.or.jp/kaiin/kikansi/honbun/2006_08_1235.pdf)
29. オムロンの成長戦略における知的財産部門の貢献実績はじめに, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/c9ab56ea18080d02eb81.pdf>
30. 【特許トレンド解説付き】ヘルスケアの技術動向調査レポートを公開 - TECHBLITZ, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://techblitz.com/report/healthcare-20230929-by-patsnap/>
31. デジタルヘルス領域における特許出願と知財戦略の最新動向 | 知的 ..., 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/strategy/articles/ipa/digital-health.html>
32. デジタルヘルスの技術開発・政策動向と知的財産戦略の論点, 3 月 23, 2025 にアクセス、[http://www.jjpa.or.jp/kaiin/kikansi/honbun/2021\\_04\\_466.pdf](http://www.jjpa.or.jp/kaiin/kikansi/honbun/2021_04_466.pdf)
33. 知的財産推進計画 2024, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/chitekizaisan2024/pdf/siryou2.pdf>
34. 第 2 回 特許情報から読み解くヘルスケア業界におけるエマージングテクノロジー活用, 3 月 23, 2025 にアクセス、[https://www.hitachiconsulting.co.jp/column/intellectual\\_property/02/index.html](https://www.hitachiconsulting.co.jp/column/intellectual_property/02/index.html)
35. 第 6 回 ソフトウェアの知的財産管理 | DTFA Times | FA Portal | デロイト トーマツグループ, 3 月 23, 2025 にアクセス、

<https://faportal.deloitte.jp/times/articles/001106.html>

36. 知的資本, 3 月 23, 2025 にアクセス、[https://www.denso.com/jp/ja/-/media/global/about-us/investors/integrated-report\\_web/2023/pdf/p80-83.pdf?rev=a035aef001c1495fa136d84d7490b9d7](https://www.denso.com/jp/ja/-/media/global/about-us/investors/integrated-report_web/2023/pdf/p80-83.pdf?rev=a035aef001c1495fa136d84d7490b9d7)
37. www.nri.com, 3 月 23, 2025 にアクセス、<https://www.nri.com/content/900034220.pdf>